

## 荒川ダム群等の現況と今後の対策について



浦山ダム（平成21年10月2日撮影）

平成21年10月23日

関東地方整備局

# 1. 荒川ダム群等の現況

## (1) 降水量

平成21年4月以降の荒川秋ヶ瀬上流域の降水量は、梅雨期の前半における降水量が少なく、また、台風による降雨の影響も10月に入るまでは全く無かったことから、5月を除いて平年を下回る降水量となっています。特に5月中旬から6月中旬の間、及び8月下旬から9月下旬の間は、日降水量が1mm未満の日数が92日間で66日間となっており、さらに9月の月降水量は37mm（平年比16%）で平年を大きく下回り、昭和40年から平成21年の45カ年中で1番目に少ない降水量を記録しました。

10月は、8日に通過した台風18号の影響によるまとまった降雨があり、月降水量は21日までに145mm（平年比101%）となっています。

平成21年の荒川の秋ヶ瀬上流域平均降水量は、1月から9月の累加降水量が852mm（平年値の累加1,148mm、平年比74%）となり、現在のところ平年を下回る降水量となっています。

（図-1、表-1参照）

図-1

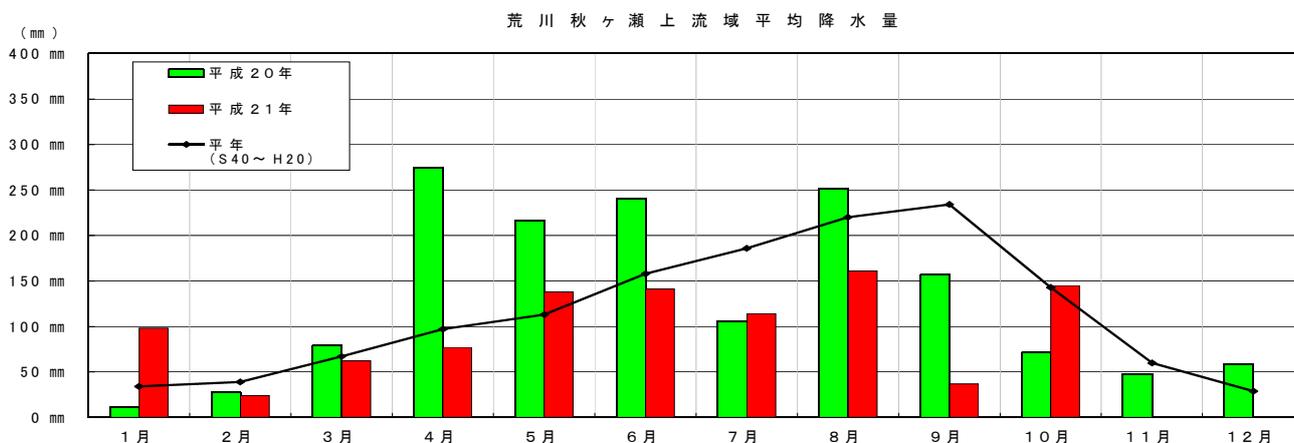


表-1 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量（平成21年10月21日まで）

単位 (mm)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成20年	12	28	79	275	217	241	106	252	157	72	48	59	1,546	
平年 (S40-H20)	34	39	67	97	113	158	186	220	234	143	60	29	1,380	
平成21年	98	24	62	77	138	141	114	161	37	145			997	
平年比 (%)	288	62	93	79	122	89	61	73	16	101				

※. 荒川秋ヶ瀬上流域面積 2,021km<sup>2</sup>

(2) 荒川ダム群の貯水状況

荒川3ダム（二瀬ダム、浦山ダム、荒川調節池）は、5月8日に貯水量6,775万<sup>3</sup>m、常時満水容量に対する貯水率79%（平年比99%）に達した後は、平年並の貯水量で推移していましたが、少雨の影響により8月中旬から9月末まで下流部の水利用に対して継続的な補給を行い、9月30日には、3ダムの貯水量は2,802万<sup>3</sup>mまで低下し、平成12年から平成21年の10ヵ年で最も貯水量が少ない年となりました。また、滝沢ダムについては、7月中旬に試験湛水が完了し、その後は下流の状況を見つつ、貯め上げを行ってきました。

10月には、8日に通過した台風18号の影響によるまとまった降雨があり、貯留を行ったことから、滝沢ダムを含む荒川4ダムは、10月22日9時現在の貯水量は、4,748万<sup>3</sup>m、貯水率33%となっています。（表-2、図-2、図-3参照）

表-2 荒川4ダム貯水量

平成21年10月22日9時現在					
ダム名	有効容量 (万 <sup>3</sup> m)	貯水量 (万 <sup>3</sup> m)	貯水率 (%)	前日補給量 (万 <sup>3</sup> m/日)	平年比 (%)
二瀬ダム	2,000	584	29	6	84
滝沢ダム	5,800	1,060	18	-7	—
浦山ダム	5,600	2,084	37	-4	55
荒川貯水池	1,020	1,020	100	0	102
4ダム合計	14,420	4,748	33	-5	87

1. 有効容量は、常時満水容量。
2. 貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い）
4. 平年比は、過去の平均貯水量に対する割合。4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合。

図-2

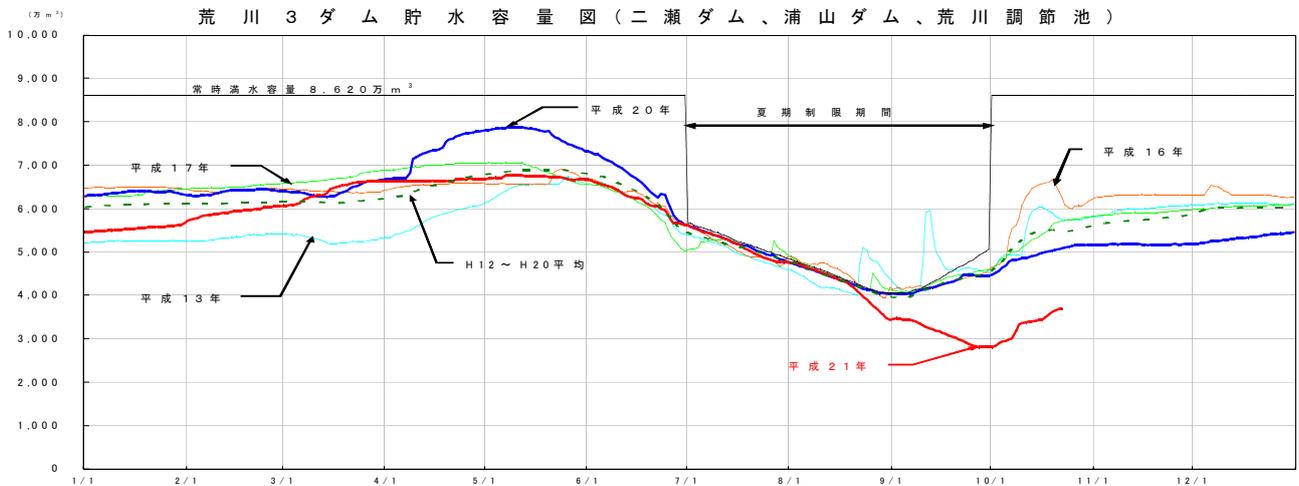


図-3

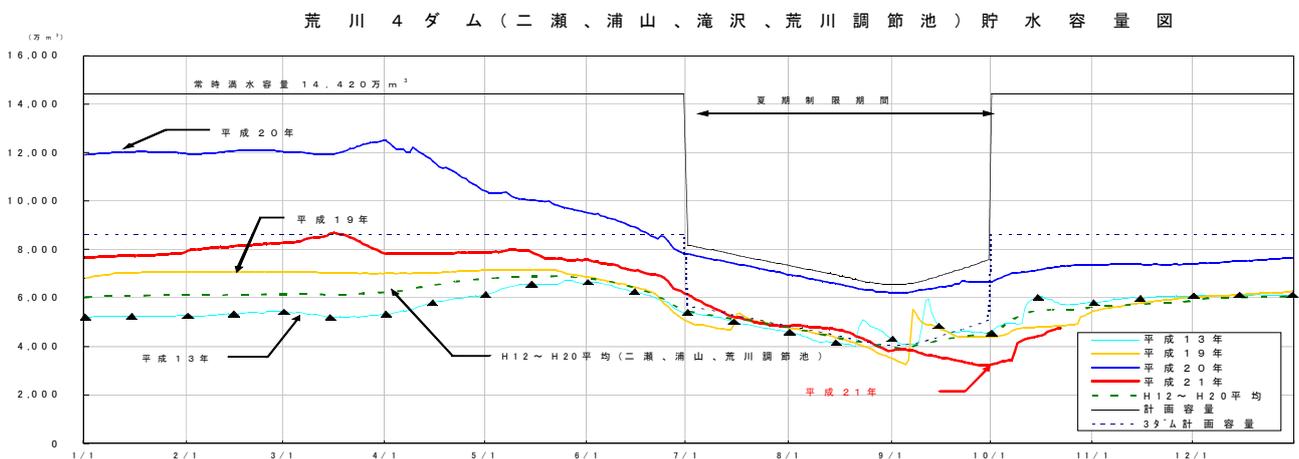


図-4

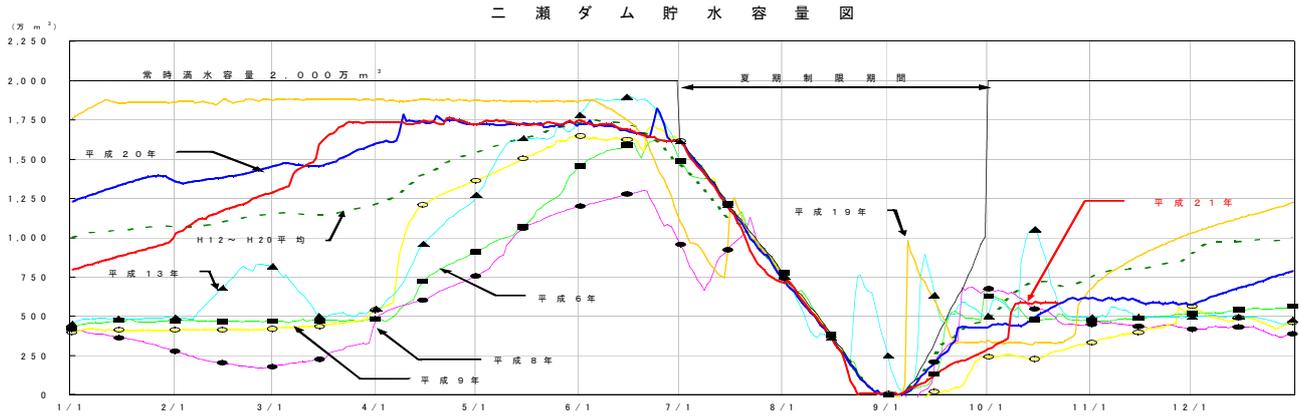


図-5

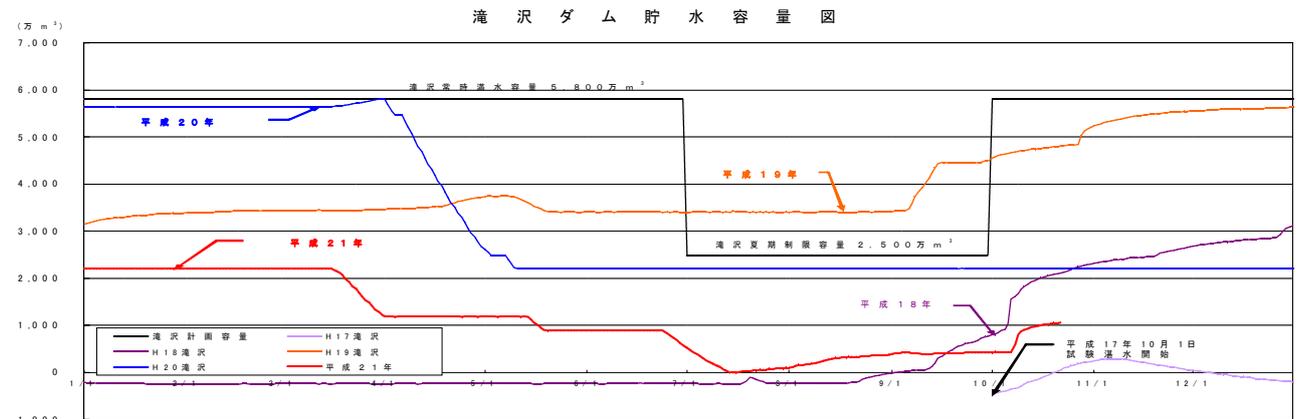


図-6

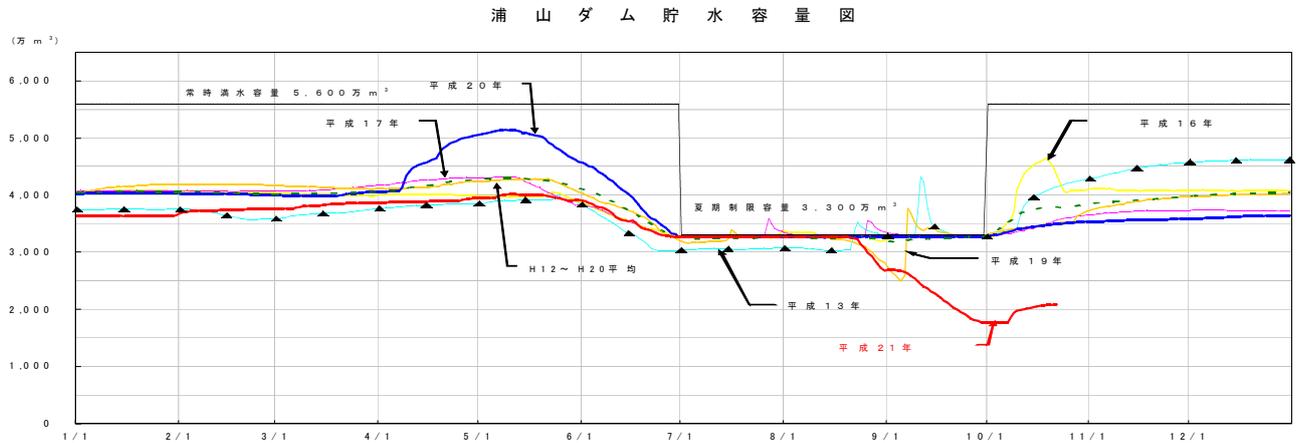
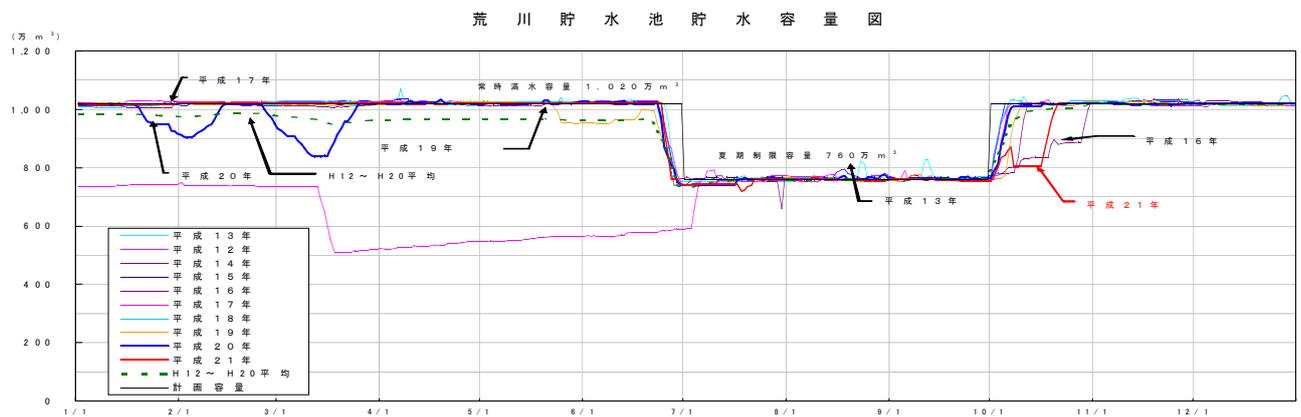


図-7



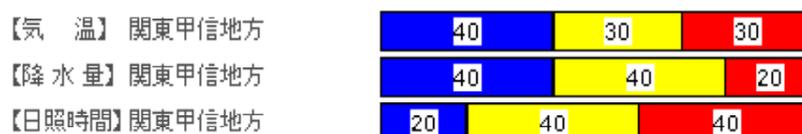
## 2. 今後の見通し及び対策

### (1) 見通し

- ①. 平成21年10月16日発表の気象庁の1か月予報によると、10月17日から11月16日の関東甲信地方の降水量については、「平年並」となっており、9月24日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、10月は「多い」、11月は「平年並」、12月は「平年並」となっています。また、9月24日発表の気象庁の寒候期予報によると、12月から2月の降水量は、「平年並」または「多い」となっています。

#### 1か月予報（平成21年10月16日発表）

##### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

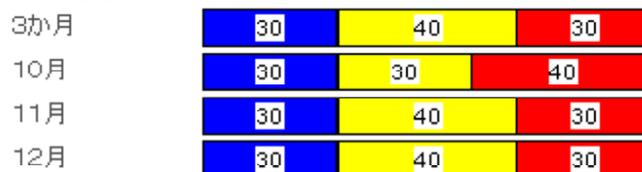


凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 3か月予報（平成21年9月24日発表）

##### 【降水量】

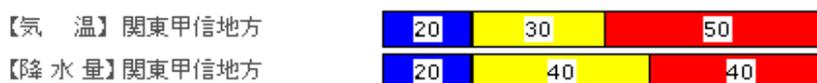
[関東甲信地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 寒候期予報（平成21年9月24日発表）

##### <冬(12月～2月)の気温、降水量の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②. 荒川4ダムのうち、二瀬ダム、滝沢ダムは、ダム運用上、重要な工事を実施するため、貯水量を制限した運用を行うこととしていますが、そのうち二瀬ダムについては11月までには工事を完了させる予定です。

また、一般的に冬期の降水量が少なくなることから、下流域の水需要を満たすためにダムからの補給が予想されます。

### (2) 対策

#### ① [荒川水系におけるダム群の貯水量の確保]

今後は、流域の降水状況や、水利用の状況を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。

また、上流ダム群の貯水量の状況や降雨状況の情報提供についても、積極的に行っていきます。

#### ② [荒川水系渇水調整協議会の取り組み]

荒川水系渇水調整協議会としては、幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していきます。また、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に対応していきます。

